

# これまでの取組の総括

令和2年3月10日  
長門市

# これまでの主な取組の経緯

- 2016年8月に長門湯本温泉観光まちづくり計画が策定され、翌2017年5月から推進会議を開催し、本日を含めこれまで約3年間、全10回の推進会議の開催を行い、取組を進めてきた。
- 今年度末で主なハード整備が完了、本格的にスタートするに際してこれまでの主な取組を振り返る。

## 【これまでの主な取組の経緯】

2014年1月	老舗旅館倒産
2015年12月	湯本温泉旅館協同組合による老舗旅館施設解体工事完了
2016年4月	星野リゾートの温泉旅館ブランド「界」進出協定締結
2016年9月	長門湯本温泉観光まちづくり計画策定
2017年5月	第1回長門湯本温泉観光まちづくり推進会議開催（以降3～4か月に一度開催）
6月	第1回長門湯本温泉観光まちづくりデザイン会議開催（以降毎月開催）
9月	山口銀行及びYMFG ZONEプランニングと長門市による包括連携協定締結
9～10月	2017年度社会実験（河川活用、道路再編、照明改善等）
2018年3月	長門湯本温泉景観ガイドライン策定（2019年4月景観条例制定）
4月	恩湯等施設整備・運営事業について、長門湯守(株)と市が基本協定締結
7月	長門湯本オソト活用協議会設立
9月	2018年度社会実験（河川活用、道路再編等）
10月	河川法に基づく都市・地域再生等利用区域（河川準則特区）の指定
12月	萩焼深川窯振興協議会設立
2019年2月	2018年度冬季社会実験（閑散期対策）
3月	長門湯本温泉駐車場指定管理者（長門湯守）の決定
8月	2019年度社会実験（道路再編）
11月	道路協力団体制度要綱の制定（2020年2月に長門湯本オソト活用協議会を道路協力団体指定）
12月	入湯税引上げに係る条例改正、みらい振興基金条例制定（2020年4月より引上げ）
2020年2月	2019年度冬季社会実験（閑散期対策）
3月	長門湯本温泉まち株式会社設立、及び長門市との協定締結 界 長門、恩湯等の民間施設が開業、公共空間のハード整備完了

# 観光まちづくり計画と取組の現状①

	マスタープラン・まちづくり計画	現状と今後の課題
目標スケジュール	平成33年度(令和3年度)	令和元年度末で完了するよう前倒しで実施。
インフラ整備	河川整備(飛び石、雁木広場、川床)	計画通り令和元年度末で整備完了の見込み。 川床については、平成30年に河川法に基づく都市・地域再生等利用区域の指定を受け、運用開始。
	河川以外(令和3年度まで)	計画を前倒しして整備中(夜の魅力として、夜間照明を整備)。 令和元年度末までに一部の市道整備を除き整備完了の見込み。
温泉地名称	インバウンドも意識した温泉街の名称の変更	デザイン会議・推進会議で検討の結果、「長門湯本温泉」で統一して整備する方針を確認。
施設整備	恩湯	長門湯守により開発。令和2年3月18日開業予定。
	礼湯	事業採算性の観点から計画にある移設は行わず、歴史性等を後世に伝えるために礼湯跡地にモニュメントを整備。
	飲食物販施設(食べ歩き店舗)	長門湯守により、恩湯と併せて開発しており、令和2年3月18日開業予定。また、その他、界 長門によるテイクアウト店舗、カフェ、バー、飲食店が民間投資により令和2年3月から順次開業予定。
	文化体験施設	事業性が見込めず開発は当面見送る。一部機能は民間投資によって整備されたcafe&pottery 音で取組中。また、土産店舗についても民間投資によって竹林の階段沿いに令和2年3月開業予定。
	駐車場	市で整備し、令和2年1月15日より指定管理(長門湯守)により運営中。 温泉街の中にあったバス停は駐車場に移設。
	貯湯施設	平成31年4月に整備完了、供用開始。
	住吉神社周辺	住吉神社へのアプローチとして石畳舗装を整備。 恩湯整備に際して、住吉神社参道へのアプローチをデザインで表現することで認知度向上に向けた設計とした。

※下線部が対応継続中の事項。

# 観光まちづくり計画と取組の現状②

	マスタープラン・まちづくり計画	現状と今後の課題
統一感のある景観形成	景観ルール整備、既存構造物の対策	景観ガイドライン(平成30年)及び景観条例(平成31年)を制定。 湯本提灯の掲出や景観ガイドラインに合わせた修景補助事業を実施。 県条例において、温泉街の一部地域で風営法営業が可能な状況。
歩ける温泉街形成	中心部付近へ長門湯本駅の移設	移設に関して地元・JRと協議検討、移設は当面見送る。
	厚狭駅への停車新幹線の増便	新幹線と美祢線の接続ダイヤについてはJR西日本により改善。 厚狭駅停車の増便については、JRに対して県を通じて継続的に要望。
	通過交通や路上駐車抑制	社会実験の検証を踏まえ、左岸側道路に狭窄部を設置するよう道路整備。 また、恩湯周辺などの右岸側道路は一部車両通行を抑制するように整備。 令和2年4月から、道路協力団体制度を活用し、歩行者空間を創出する枠組みを構築。
電線地中化	旧堂上福永(駐車場)とメインエリアの電線地中化・架空線の整理	メインエリアは配線ルートを替えて対策済み。 温泉街全体での地中化はコスト面から困難であると判断。
コンセプト	関係者が方向性を共有できるコンセプトの検討	まちづくりに関するコンセプトとして「オソト天国」を決定。
コミュニティ機能	防災やコミュニティ、伝統芸能の整備・承継	コミュニティ・防災施設は自治会で整備。伝統芸能についても自治会等による保存会により活動を継続。
「ゆるキャラ」等の扱い	「ぬく丸」や「恋人の聖地」の取り扱いの検討	看板等に記載のイラスト等について、サイン整備の中で撤去。恋人の聖地については銘板を返還し、石碑は別途再活用。
持続的な投資を生むスキーム	生み出した収益を地域に投資していく主体の検討	令和2年4月からエリアマネジメント法人による観光地経営をスタート。 税条例・基金条例を改正し、入湯税増税分を活用した仕組みを構築。

※下線部が対応継続中の事項。

# 継続検討中の事項の今後の対応について

観光まちづくり計画に基づき取組を進めてきており、現状までの取組状況を踏まえ、継続的に検討が必要と考えられる主な事項は以下のとおり。

## ①文化体験施設・暫定地利活用

事業採算性などを考慮した結果、現時点ではペンディングとしている。文化体験施設やコンテンツの創出については、今後の集客状況や観光客のニーズ等を勘案し、エリアマネジメントの一環として暫定地の利活用(後述)を含め、継続的に議論を進める。

## ②長門湯本駅の移設・山陽新幹線からのアクセス改善

長門湯本駅の移設については用地の取得など移設に要する費用が高額になる見込みであり、周辺住民や観光客の来訪手段等を勘案すると当面は移設は見送る方針。他方で、車以外のアクセスとしてJR美祢線は重要な手段であり、JR西日本との協議を継続し、本市への鉄道によるアクセス改善に引き続き取り組む。

## ③景観形成

長門湯本温泉のうち、特に景観に配慮が必要な範囲において、法的拘束力を担保するため景観協定の締結に向けて地元自治会等が手続きを進めている。他方で、県条例において、県内の温泉街では湯田と長門湯本で風俗業の営業が可能となっており、県に対して条例改正の要望に取り組む。

# 暫定地の整備方針について



# 暫定地の利活用の方針について

- 温泉街として必要な要素は今年度の整備が終了したとしても、まだ十分ではない状況にあり、今後、暫定地も積極的に活用し、賑わい創出を行う必要がある。
  - トップ10になるためには、整備から10年程度の時間がかかる想定。温泉街の中心部では、用地に限られる中、すべての暫定地をハード整備に合わせたタイミングで使い切ることにはリスクがある。
  - 暫定地の利活用に際しては、6つの要素の状態を判断しつつ、その用途について民間投資等の状況も勘案しつつ、要素が重複しないか等を調整すべき。
- ⇒ 今後、必要な要素を慎重に検討し土地の有効利用を図ることが、トップ10になるために不可欠であり、早急に利活用を推進することはリスクが大きい。
- ⇒ 基本的な方向性として3年程度は様子を見ることとし、観光地として必要な要素の充足状況を確認。長門湯本温泉まち株式会社が主体となって活用方法を検討し、市と協議の上、みらい振興評価委員会に諮りつつ方針を決定することとする。